

無病長生養生之法

天壽補元丹 來由



此御茶七妙三徳の變左に記し

貝原先生 養生訓 四之卷 大要

貝原清の筑前侯の儒官篤実の君子なり壽百余歳を保り

此藥の唐の醫仙壽百余歳と保り孫真人之秘方也玄宗皇帝大醫院に令し之を製し之を平生に服用したまひ天子の御方なる長命を保ち老後まが揚貴妃等壯年の妃を愛せさせ玉ふ其方傳り西川の西川氏漢人より製茶の方を傳へり西川氏の

西垣文庫 文庫10 6508

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



代く百有余の壽と保ち其子孫九十歳よふんぶま力
 勇壯當時現存在方乃秘方也精氣を養ふ忽ちこれ
 如神乃聖劑 予此十歳の頃より心腎の虚に
 塞し心火元より双耳聾より肺全痛
 喘水分枯濕
 一壞症となり百計を盡すも治せぬ
 尚地及京師有名の
 良医と尋ね診を請治を需先百般の薬を服せし
 治さるる能はざり目々憔悴枯槁
 唯一死と待のまかり
 又此方を授りて法のごとく千練し
 潤劑一拔用するに
 後希難治の重症霜雪乃朔日
 又ひうがごとく悉消融し
 既老幸に及ぶといども
 二三十歳乃時より氣力十倍
 身心とも勇壯ふし
 賢髪不枯眼力鮮明皮膚
 光澤を生じ世間流行乃風邪
 疫疾も感胃せぬ
 是よりいへば諸虚百損乃人
 又あつて
 試らば其効驗神乃ごとく
 普く海内も告げ

弘ひる夏末より
 一人ハ小天地陰陽充實徒運ハ何の病生
 矣終又氣血
 不充而河堤ハ健運夜を失い種々の病
 となり百般も變り
 とくどもい葉と服せば患治せむといふ
 及如何と云れ本
 根を培ふを濡ばよく盛長繁茂
 如くい葉人の根本たる
 其法元陽と補助するを
 必く腎精壯まらり心の
 機計活して
 脾胃と滋潤を肺金
 潤沢肝木元氣を
 又養ふと
 脾胃を調和
 食を進め
 痰咳を治め
 肥瘠根を治す
 汗と止發熱と解し
 婦人經行不明
 冷濕赤白帶下血
 小兒諸病
 其外男女一切虚症と治する
 用い減して
 妙と知るべし

○功能

心氣を勞倦する抑え
 六經奉漸蓄り
 結根

虚勞に諸業を用ひく功強まると日々瘦衰るにけ業を用ひく
功強まると妙之手多事諸人よふへ試るに不活と云ふなり
け業より後中と潤つるに神妙なり是れよりけ業を用ひ
功強まると治に世深の脾胃和せに大小便分利せざるより
利なり秘結の脾胃潤いど運移失夜潤ゆるなり
結るなり脾胃を潤ふを過不及なく二便よきなり

通じたるものあり
下血脱胎と治するもの妙是氣血を温補するものなり
腎虚又ハ生質虚弱色憔悴と安く陽子弱く結りれ安
く肌膚光澤なく憔悴し子何ハ蒙が燥熱をくく人
赤く又ハ白濁發脱てを救なり壯年人ハ白髪多く積り
敗へさしと腰膝冷又ハ痛く疾ぎして不得安臥房をせ
翌日ハ氣を恍惚とせるもの病を用ひて治するものなり
陰痿の人ハ用ひて壯人ハたりと妙なり老老人虚人ハ
三又別用ひむ壯年のことこれなるべし壯もども色欲の
陰くわると一陽ハ勢強くなるものとこれなるべし養生の
法と用ひく妙なり一まハ長壽と保つべし
一痛症ハ氣をきききく筋を固めり胸膈痞塞緩急神志不定
煩悶怒其外種ハ赤腫の病をあつたればとて心腎虚し
なり其後肝火亢るより一まハ長壽と保つべし病なりけ業にて治するものなり

一積塊の病なる動気強痛むりさし過り背結あり小後
眩張ありら不食朝の病し胸悶満あり飲食無事食
ふりく回も多し肌ふる心ありて後力あり等の病を治し
是ハ積聚を治する業ありわささきともけ業ありさ元と温
補するふより運化積聚等自然消化し治する
なり世間の積る用ゆる苦を業い當分けし一ゆさる
く治するにいとまきぞ
一積聚に食子時分少しにとも逐まりゆへ積聚元上る
症あり其死に業を服し茶白湯でも治すべし
治すること妙なり
一症元ハ血不眠より生まる病なり百般又悩むも
此病ハ温補をまば自然又血なりて治す
一痛眩暈気逆欬燥き耳鳴聾目翳耳垢不く
額發脱より髪うるとく既瘵さホの症さへ上樹するを

治下治さるる病のごとく
一困乃痛脚膝の腫痛之類のをれ咽喉の腫舌細き物
み熱燥る唇の種さへ口中一切の病け業にて下
と温補をまば奇妙又治す
一箇飲ハ冷湿周身は沸ありて法病となる者ハ瘧疾或ハ
ハ涎沫を吐し拍膈満嘔噎痰振左右ハ瘰癧頰岡に肢
腰脊痛目眩眩暈傳気嗜外其餘名の消ぐさ百般の
病とみ又用ひて治するごとく神のごとく
一瘧疾喘息と治するより神妙なり瘧ハ血滯ありて瘧と
あり瘧より法病ありて瘧を治せんよりけ業を用ひて
血を温補し運らせば氣滯消くられて瘧と生さるるは
一肺氣虚弱再々感冒し清痰ある人又五疔なる風業と用ひ
まハ凡邪も元元も業れ攻撃より一旦ハ發散せらるる
ども再々此のごとくまは元元次々に虚し七疔凡疔感冒

こととあけく救いなきが... 風邪感冒こと止る神妙なり

一 風邪發表... 二 筋にて風邪... 又い疾急又傷り

水のくろりにて... の人の弱る携へる業なり

一 筋まどに... 大又勞ら付け業と服をれ

一 筋まどに... 一 筋まどに... 一 筋まどに...

一 筋まどに... 一 筋まどに... 一 筋まどに...

一 筋まどに... 一 筋まどに... 一 筋まどに...

一 筋まどに... 一 筋まどに... 一 筋まどに...

一 筋まどに... 一 筋まどに... 一 筋まどに...

一 筋まどに... 一 筋まどに... 一 筋まどに...

一 筋まどに... 一 筋まどに... 一 筋まどに...

一 筋まどに... 一 筋まどに... 一 筋まどに...

一 筋まどに... 一 筋まどに... 一 筋まどに...

またの内攻或は一曰治しと尚分ハ知まねども因ふ病とあり
一五年の乃ハ芳症ホホあり記さるも妻一湯中く治し
一生堅固なる人もありまよもまよしく陽氣充實壯健の
人志だての人業を不服用ありありまよも凡ハ放毒散と的
申業と心得く暇所凡邪と放散さる種と業にて湯中
と引建る業とありまよも其甲斐はけ補元丹中温補すれ
ハ内勇壯にありありまよもけの放毒とる由へ悪く後再び
法症はまよもまよもまよも
一脱肛下血ハ陽中甲斐なく下部不堅固由ありけ業
て温補まよもまよもまよも治し
一陰萎陰囊の濕り瘡と又ハ婦人陰門の瘡と治し
一鼻中肉又物の生るる鼻痔と又ハ咽の下首節の肉より
凝塊生るる後みまよも種とる耳の鳴り髪脱落とる
て首の逆の病ハ下部乃冷濕に火運上しと記る此業

に之ハ下部を温補まよも治しとるまよも
一梅毒 濕毒 結毒 風毒 其餘一切ハ腫物種ハ瘰癧
しと治せざるハ此業二劑服用ハ効驗ハく續いて用れ
ハ全枝を妙散又用れまよも早く治しとる長病とあり
一婦人ハ七日あるまよも経月ハ一日二日又ハ一月二月滞り
功積て大病とるまよも血塊とて腹中ハ塊生後ハ世後
とあり又ハ帯下はく上物糞足ハ耳鳴り血吐白血赤血陰
門ハ病屢く生るまよも此症ハ用い治しとる神のこじ
○右男女の病ハ皆湯中不異し血吐らざるより瘰癧血と
なり始ハかハの瘰癧ハ川ハ古砂乃積るごとく次中ハ
凝りて瘰癧血とありて後病左記アそりハ膏日不愈ハ業
を以て人命の根本とるまよも法元陽を補とるハ血よく
めがりと治せばとるまよも一婦人上衝ハく同腎血
と一過月ハとるまよも此業とありまよも治しとる

其間ニ醫治多し生じ舊日治せざるの常下の困を以て其
を抜すも目の業を攻むる妙は治れ
婦人懐妊し後月より一割り用ひて産を安くし産後
又用ひて健を中く乳汁多ししむ或はみるを婦人より
子を飲せし一割り用ひて妊婦より妊婦より
小兒虚弱にて肥え難る痲瘋を以てく食は味なくよく
一ても痲瘋より用ひて妊婦より妊婦より
又乳母に飲しむべし一割り小兒の胎毒あるものぞ痲瘋指
痲瘋とて毒を以て内陽を以て強出之毒を以て其
此の杜佳かりまを証業を以て治するは此より内へ押
かり又を毒利の其元を以て攻む腸胃と換し陽を以て
めりまより毒を以て病を以て一期病とみたりは業母親乳母
飲はれたる血吸り乳汁清くなり胎毒も次より消化
して母子とも杜佳なるなり

女子の別々々淫欲の心勝りば不貞の事以て其業の
徳ハ腎氣を杜んよし一割り用ひて其情を以て治すは
神妙の靈業を以て澄の世間を淫りたる人より多く
精の浅るるを以て男女とも子種を以て治すは腎氣
不足の事なり腎氣壯なる人ハ根を以て治すは腎氣
一切奉の時より毎奉一割り用ひて其情を以て治すは
根を以て治すは腎氣を以て治すは腎氣を以て治すは
又下痲瘋毒乃患を免ま妻と求むる時分に腎氣大を以
て治すは腎氣を以て治すは腎氣を以て治すは腎氣を
右に外一切虚弱の人より用ひて其情を以て治すは
又眼目を以て治すは腎氣を以て治すは腎氣を以て治す
又困倦せし延奉長奉の神丹也

○服法 白湯 温酒 茶 一づきにてもよ

延壽堂鳥飼唐齋發起



本家

調合所 法橋小田菊翁製之



大坂心齋橋南二丁目東南角

尾州賣弘所

名古屋本町 壹丁目

風月孫助

江戸賣弘所

本郷金物町

山田林右衛門

京都賣弘所

六角通 高倉西八町

岐阜屋嘉右衛門

信州元賣弘所

松本本町 五丁目

米屋彌兵衛

壹劑代金二朱半劑同壹朱

小半劑同貳匁

錢百銅 以上御望